



# 東 侯 野 2月

東侯野小学校 学校だより 平成27年1月30日

我が子らの思いをのせて凧あがる

副校長 油屋 邦江

新しい年が始まり1か月が経ちました。暦の上ではもうすぐ立春、道端の黄色い水仙の花に春がそう遠くないことを感じるこの頃です。

さて、1月17日(土)に東侯野小学校創立以来、脈々と受け継がれてきた「凧づくり・凧あげ大会」が今年度も行われました。この行事は、創立当初、当時の職員と地域の方と保護者で何か東侯野ならではの特色ある取組を行いたいとの強い思いから、この地域に古くからあった「子どもの誕生を祝い健やかな成長を願って大凧を大空にあげる」という習わしをもとに、創りあげたものということです。



指導には東侯野凧の会、東侯野小凧の会、地域・保護者の協力者の皆様、そして保護者の方々など多くの皆様にご支援いただきながら、今年も子どもたちのたくさんの笑顔が見られたことがたいへんうれしく、ご多用の中ご来校いただいた皆様に感謝申し上げます。当日はよいお天気に恵まれ、凧は大空へ高く高くとあがっていました。中には残念ながら強風で壊れた凧もあったようです。しかし、一つ一つ教わりながら心を込めて制作した凧ですから、子どもたちには作り方を思い出しながら壊れた部分をていねいに直して大事にしてほしいです。

今学校では、今年度の学校経営のふり返りと学校評価に向けての話し合いが進んでいます。教育活動に対して成果と課題をもとに改善策を探るのですが、この凧づくり・凧あげの取組についてもいろいろな視点からふり返りを行っています。指導者、保護者、PTA役員・運営委員さんなどのご意見も伺いながらよりよい改善案に導くようにと考えていきます。今年度で28回目、東侯野小の一大行事として、地域と学校と保護者が連携してきたからこそ続いてきた行事ですが、凧の指導者の後継者不足という大きな課題があるのも現状です。今のやり方でこれから先もずっと続けるということは簡単なことではありません。何らかのやり方で何とか工夫してこの灯を点し続けたい、そして子どもたちには東侯野で学んだこの伝統に誇りをもって受け継いでほしいと願っています。

◆子どもたちの作文にも伝統を引き継いでほしいという思いがたくさん表れていました。

〈6年児童のふり返り作文から〉…一部抜粋

- 武者絵に挑戦しました。とても難しかったけど、一生懸命作りました。当日風が強くて最初はうまくあがらなかったけど、凧糸が全部なくなるくらい高くあげることができました。6年間凧を作った中でいちばんいい凧ができたなと思いました。この東侯野にしかない伝統を大切にしたいです。
- 今回凧に武者絵を初めて描きました。6年間のしめくりとして和凧らしく仕上げたいと思っていました。だからいちばんいい仕上がりになったと思います。六角凧という東侯野小学校で作るいちばん大きくて難しい凧を作ることができてよかったです。こんなに大きな凧が本当にあがるか心配でしたが、今まででいちばん高くあがったように感じました。3年生の頃からていねいに指導していただいた指導者の方がいなかったら難しい和凧を作ることができなかったと思います。東侯野小学校だけの伝統の和凧を次の学年の人たちに大切に伝えてほしいと思いました。
- 最後の凧づくり・凧あげ大会だったので武者絵にチャレンジしてみました。武者絵は細かいところが多く最初は難しくて色をぬるのに時間がかかりました。高くしっかりあがってほしいと思いながら作りました。6年間作ってみて思ったことは東侯野の伝統はすばらしいものだということです。この伝統を残してほしいなと思います。